



エコマーク ニュース

Eco Mark News

エコマークは公益財団法人日本環境協会が自主的に運営している事業です。エコマークの活動予算は、すべて認定企業の皆様からのエコマーク使用料ならびに商品認定申込者の皆様からの商品認定審査料でまかなわれています。「エコマークニュース」では、「エコマーク事業実施要領」に基づき、エコマーク事業に関する情報を提供しています。

2013.8.1 No.90

「エコマークアワード2013」募集のお知らせ

エコマーク事務局では、エコマーク商品等、環境配慮型商品普及への優れた取り組みを表彰する「エコマークアワード」を今年も実施いたします。

この表彰制度は、環境配慮型商品普及に関する優れた取り組みを広く公表するとともに、エコマーク商品等のより一層の普及拡大を通じて、持続可能な社会の実現に寄与することを目的として創設されたものです。

第4回となる今年度の募集要項は以下のとおりです。

〈表彰について〉

- 賞の種類：エコマークアワード 金賞、銀賞、銅賞〔公募〕
プロダクト・オブ・ザ・イヤー〔エコマーク認定商品の中から選考〕
- 選考～表彰の流れ：一次審査（書類審査）、本審査（プレゼンテーション、2013年12月上旬予定）を経て2014年1月上旬に受賞者を発表します。表彰式は2014年2月上旬に行う予定です。

〈募集について〉

- 募集対象：エコマーク認定商品保有企業またはエコマーク商品等の普及に貢献している企業・団体
（なお、プロダクト・オブ・ザ・イヤーは2012年度、2013年度に認定されたエコマーク認定商品の中から選考します。）
- 募集期間：2013年8月1日（木）～9月30日（月）
- ◆ 詳細はエコマーク事務局ホームページ（<http://www.ecomark.jp/award/2013/>）をご覧ください。ご応募をお待ちしております。



認定基準に関するお知らせ

認定基準の制定

以下の認定基準が制定されましたので、お知らせいたします。

類型番号	商品類型名	制定日	有効期限
153	乳幼児用品 Version 1	2013年5月8日	2020年5月31日

◆ 認定基準は（<http://www.ecomark.jp/nintei/>）をご覧ください。

認定基準案の公表およびパブリックコメントの受付

以下の認定基準案の公表およびパブリックコメントの受付について、お知らせいたします。

類型番号	商品類型名	公表期間（30日間）
140	詰め替え容器・省資源型の容器 Version 1.7（適用範囲の拡大） 分類C. 無菌包装米飯容器 分類D. 軽量PETボトル（容器） 分類E. 食品用器具および容器包装における再生材料を使用したPETボトル（容器）	2013年8月1日～2013年8月30日
新規	太陽熱利用システム Version 1	2013年8月1日～2013年8月30日

◆認定基準案、パブリックコメントの受付については（<http://www.ecomark.jp/nintei/public/>）をご覧ください。

認定基準の改定

以下の認定基準の部分的な改定の実施について、お知らせいたします（VersionのNo.は改定前のもの）。

類型番号	商品類型名	改定のポイント	改定日
119	パーソナルコンピュータ Version 2.8	ディスプレイの省エネ基準の改定（国際エネルギースタープログラム Ver.2.0 との整合）	2013年8月1日

◆改定点の詳細については（http://www.ecomark.jp/office/organization/deliberation_data/）をご覧ください。

委員会報告

基準審議委員会（第13回）

第13回基準審議委員会が2013年7月8日に開催されました。審議事項は以下のとおりです。

〈審議事項〉（上記参照）

1. エコマーク商品類型（認定基準）案について

2. エコマーク商品類型（認定基準）の部分的な改定について

◆資料等詳細は（http://www.ecomark.jp/office/organization/deliberation_data/）をご覧ください。

新認定商品のご紹介

エコマーク認定のテレビが市場に登場——期待される環境配慮型製品の普及

国内の一般世帯におけるテレビの普及率は99%を超えており、薄型テレビの普及も急速に進んでいます。また、番組録画やDVD／ブルーレイディスクの視聴、インターネット対応など、用途に応じた多機能化も進展しています。このように社会に広く浸透している製品に関し、ライフサイクル全体の環境負荷を考慮した情報を提供し環境配慮の側面を重視した選択・購入を促すことは、大きな意義があります。

エコマークでは2013年3月に、新規商品類型No.152「テレビ Version 1」において、省資源・資源循環、省エネルギー、有害物質の使用削減、情報提供など、総合的な観点から環境負荷低減を促進するための認定基準を制定しました。これまでに2社の企業により35製品がエコマーク認定を取得しており、環境負荷の少ないテレビが普及していくことが期待されます。

（次ページに続く）

■ 20 製品が第 1 号の認定を取得

—— パナソニック株式会社

パナソニックでは、環境配慮設計に基づく製品を「グリーンプロダクツ」と位置づけ、製品の企画から廃棄に至るライフサイクル全体の環境負荷低減に向けた取り組みを進めています。同社では、環境配慮型商品の購入を検討している消費者にわかりやすく訴求するという観点から、第三者認定による環境ラベル制度であるエコマークの認定取得に取り組んでおり、商品類型「テレビ」の第1号として、「ビエラ」(プラズマテレビおよび液晶テレビ) 20 製品が認定を取得しました(認定番号 13 152 001~020)。

認定商品はすべて、ユーザーの視聴環境や使用環境に応じてテレビ本体および周辺機器を自動制御する省エネ機能「エコナビ」を搭載しており、待機時消費電力も約0.1Wという水準を実現しています。製品開発においては、高効率パネルの採用やLSIの集積化などの積み重ねにより、機能を高めながら優れた省エネ性能を実現しました。このほか、省資源・資源循環、有害物質の使用回避・抑制などに関する基準をクリアし、認定を取得することとなりました。

同社では、商品類型「BD/DVDレコーダー・プレーヤー」において、2012年に「ディーガ」が第1号の認定を取得しており、「ビエラ」と「ディーガ」を組み合わせた「エコAVシステム」としての利用を含め、エコマーク認定のAV機器の普及に努めていく考えです。今後の開発製品についてもエコマーク認定取得に取り組むとともに、商品カタログやウェブ等においてエコマークを活用し、販売促進につなげていく計画です。

◆ パナソニック(株) プラズマテレビ/液晶テレビ

「ビエラ」のウェブサイト

<http://panasonic.jp/viera/index.html>



エコマーク認定のパナソニック(株)
プラズマテレビ「ビエラ」(TH-P65VT60)

■ 継続的にエコマーク認定取得を推進

—— シャープ株式会社

シャープでは、事業活動による環境負荷(ネガティブ・インパクト)を大幅に上回る環境貢献(ポジティブ・インパクト)を果たす「エコ・ポジティブカンパニー」を企業ビジョンに掲げており、創エネ・省エネ製品の開発・普及による温室効果ガス削減をはじめ、環境負荷の低減と環境への貢献に取り組んでいます。

環境配慮型商品の普及に向けエコマークの認定取得に力を入れている同社では、これまで「複写機」「プリンタ」「太陽電池を使用した製品」(ソーラー電卓)などにおいて認定を取得しており、「テレビ」の認定基準制定を受け、主力製品である液晶テレビ「アクオス」の15製品が認定を取得しました(認定番号 13 152 021~035)。

「アクオス」の開発にあたっては、資源使用量の削減をはじめ省エネ性能の向上や製品長寿命化、使用後のリサイクル性など、製品のライフサイクル全体を通じた環境負荷低減が図られています。また、部屋の明るさやテレビの操作状況に応じて消費電力を節減する機能等を搭載しており、待機時消費電力も0.1Wに抑えられています。さらに、液晶セル内の光の透過率を高める独自技術と高効率LEDバックライトの組み合わせにより、高画質と省エネを両立させることに成功しています(一部認定商品)。

シャープでは、今後も環境技術の開発や製品の環境性能の向上に向けた取り組みを進めるとともに、消費者の環境意識が高まっていることを踏まえ、環境配慮型商品であることが一目で認識できるエコマークの認定取得に継続的に取り組んでいく考えです。

◆ シャープ(株) 液晶テレビ「アクオス」のウェブサイト

<http://www.sharp.co.jp/aquos/index.html>



エコマーク認定のシャープ(株)
液晶テレビ「アクオス」(LC-80XL9)

トピックス

イベントに参加しました（アジェンダの日）

5月25日（土）、26日（日）に、神奈川県横浜市の日本大通りにて「環境イベント アジェンダの日2013」（主催：かながわ地球環境保全推進会議）が開催され、エコマーク事務局が出展しました。

ブースでは、来場された方にアンケートを実施しました。「エコマーク商品を買ったことがありますか？」との質問に対し、「はい」という回答が56%を占めたものの、「どんな商品かはわからない」と答える方もい

らっしゃいました。

今後も地域の環境イベントへの出展を進め、エコマークが買い物の時の目印となるよう、消費者へのアピールに努めてまいります。



タイ環境ラベルとの相互認証協議を行いました

6月11日（火）、12日（水）に、タイ・ノンタブリーにて、タイグリーンラベルを運営するタイ環境研究所（TEI）と相互認証に関する協議を行いました。今回は、昨年11月に再開された協議で選定したプリンタおよび複写機の共通基準項目を決定するとともに、認証スキーム等についての議論を行いました。今後も相互認

証の実用化に向け、継続的な協議を進めていきます。



中国環境ラベルとの相互認証協議を行いました

7月11日（木）、12日（金）の2日間、中国・北京にて中国環境保護部環境認証センター（ECC）※1 および中環連合（北京）認証センター有限公司（CEC）※2 と相互認証協議が開催されました。会議では、事業者から相互認証の申請を受けて、2か国間で取り交わさ

れる書類の確認、認定後の監査等の協力など、実務的な内容について協議を行いました。

※1 中国環境ラベルの基準策定、ロゴの管理を行う機関

※2 環境ラベル、EMS等、中国における環境関係の認証を包括的に行う機関

お知らせ

エコプロダクツ2013に出展します

エコマーク事務局は、12月12日（木）～14日（土）に東京ビッグサイトで開催される「エコプロダクツ2013」に出展します。エコマーク使用契約企業のみならず、認定商品の展示や会場内でのエコマーク

掲示に関してご協力をお願いしたいと考えています。展示等についての詳細が決まり次第、エコマーク事務局ウェブサイトおよびメールマガジンにてご案内いたします。

エコマークニュース 第90号 2013年8月1日発行

編集・発行／公益財団法人 日本環境協会 エコマーク事務局

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16 馬喰町第一ビル9F

TEL: 基準・認証課 03-5643-6253 FAX: 03-5643-6257 (各課共通)

総務・契約監査課 03-5643-6255

普及・国際協力課 03-5643-6255

Homepage: <http://www.ecomark.jp>

E-mail: info@ecomark.jp

エコマークは（公財）日本環境協会の登録商標です。